

令和5年度【大田区立東調布第一小学校・理科授業改善推進プラン】

◎ 小学校理科における分析

内容別結果の分析	物質とエネルギー		生命と地球
	どの学年も目標値を上回る正答率を示しており、おおむね良好である。しかし、5学年は昨年度と比べて、正答率が約2%低くなっている。「物の体積と力」と「雨水のゆくえと地面の様子」に課題がある。		どの学年も目標値を上回る正答率を示しており、おおむね良好である。4学年は正答率が目標値より約9%上回っており、学習内容がよく身に付いている。6学年は、正答率が昨年より大幅に向上したので、徐々に知識が定着していると考えられる
観点別結果の分析	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	どの学年も知識・技能の正答率はおおむね良好である。全体として、基本的な知識や技能は備わっている。	どの学年をみても、正答率はおおむね良好である。しかし、科学分野において、課題もみられる。	雨水のゆくえと地面の様子から、雨水による地面の変化についての実験結果の推測に課題が見られた。

◎ 理科の今回の調査における課題

- ・前年度までは「生命・地球」の内容に関する知識・理解に定着が不十分な様子があったが、今年度はより一層正答率が伸びている。しかし5学年については「雨水のゆくえと地面の様子」については正答率が目標値に達しておらず、実験操作や実験結果の推測の定着が不十分と考えられる。一方で、多くの分野では知識の定着が図られている。
- ・全体を通して、「知識」だけでなく「科学的な思考・表現」を問う問題でも正答率が少しずつ上昇している傾向がある。どの学年のおおむね良好ではある。しかし、各学年課題も見られる。性質やきまりについての知識を定着させるとともに、その知識を活用し論理的に積み上げていく思考力を育成する必要がある。

◎ 理科における昨年度の授業改善推進プランの検証

取り組みにおける成果◇と課題◆

- ◇ 観察や実験の結果をグラフ等で表す活動を行ったことで、測定結果を表す技能が身に付いてきている。
- ◇ 児童自らが問題解決することを目的とした、問題—予想（予想理由）—実験計画—実験—結果—考察といった学習の過程が定着した。
- ◇ 空気や電気、光など見えないものを絵や図で表すなど考察の仕方にも工夫を取り入れたことで、少しずつ科学的な考え方が身に付いてきている。
- ◆ 科学的な見方考え方を高めるために、ICT機器等を活用して、友達の考えを聞き、自分の考えと比較したり、新しい考えを取り入れて広げたりすることに課題がある。
- ◆ 実験道具を充実させ、少ない人数で実験や観察が行えるようにしていく必要がある。

◎ 理科の具体的授業改善案

○自然環境・実験環境の整備・学年間の連携を図りながら、年度を見通した学級園や校内自然環境、理科室の整備を行う。

中学年

- ・ 問題意識をもちやすいように体験的な活動を多くいれて、身近な生活と結びつけた学習を行う。
- ・ 観察場面や実験の予想を立てるとき等にICT機器を効果的に活用して、児童同士情報共有を積極的に行う。
- ・ 理科学習においても、自分の考えを記述していくことは、大切である。観察記録、実験記録などにおいても、分ったことや考えたことを自分の言葉で記述させたり、表・図に表したりさせる。
- ・ 理科支援員と協力し、実験や観察をスムーズに行いたい。

高学年

- ・ 日常生活との関連を重視し、主体的に問題を見付け、解決していく活動を通して事物・現象の性質や規則性を実感させる。自然の事物・現象についての科学的な見方や考え方を養う。
- ・ 昨年までに引き続き、問題—予想（予想理由）—実験計画—実験—結果—考察といった学習の過程の定着を図る。
- ・ 科学的な見方、考え方を高めるために、友達の考えと自分の考えを比較したり、それを取り入れて考えを広げたりする。そのためにICT機器を積極的に活用して、情報交換する機会を確保する。
- ・ 少人数で全員が実験に参加できるように、実験道具の数を増やしていく。
- ・ 実験結果を正確に考察し、自分の言葉でまとめていくようにしたり、表・グラフ・図に表したりさせる。